

活動テーマ

地域のサロン活動への支援

山形県 社会福祉法人 輝きの会

〒990-0891 山形市大字成安425番地2 TEL. 023-681-4765 FAX. 023-681-4771

取り組み内容の ポイント

子育て世代への季節の行事食や郷土料理などの調理指導、及び高齢者への健康体操や健康講話教室の支援を実施することで、食や専門知識を通じた地域との結びつきの強化を図る。

活動内容

- 活動開始年
平成19(2007)年4月
- 活動の対象者
地域の高齢者、住民、未就学児
- 活動の頻度・時間
月1回 1回あたり 180分
(その他、随時)

取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無 記載していない
- ②事業報告・計画への記載 記載している

法人設立年

平成8(1996)年

法人実施事業

- ①経営施設数合計：11施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：
 - ・特別養護老人ホーム 1か所
 - ・障害者支援施設 1か所
 - ・軽費老人ホーム(ケアハウス) 1か所
 - ・老人デイサービス 1か所
 - ・老人短期入所事業 1か所
 - ・老人居宅介護等事業 1か所
 - ・障害者居宅介護事業所 1か所
 - ・障害者短期入所事業所 1か所
 - ・障害者相談支援事業 1か所
 - ・地域支援センター 1か所
 - ・居宅介護支援事業 1か所

法人の理念・経営方針

- 輝きの会は、3つの大切を守ります。
1. 人を大切にします。
 2. 地域を大切にします。
 3. 職員を大切にします。

取り組みを実施している施設の概要

- 【施設名】
 - ・地域支援センターいきいきの郷
- 【施設種別及び利用定員】
 - ・地域支援センター

活動実施の背景、実施にいたった理由

平成19(2007)年、当法人では、地域貢献を目的として支援センターを立ち上げた。介護や健康等について、地域住民から直接相談を受け付けることと社会福祉士や介護福祉士、作業療法士、看護師、管理栄養士等の専門職種が地域に出向き専門性を活かした活動を行うことを主な活動としたところ、地域の子育てサロンから食育を目的とした「おやつ作り講座」や高齢者を対象にした健康講話等の依頼を受け実施している。

実施内容

地域の子育てサロンの支援については、平成19(2007)年から開始し、近年では年間3～4回のペースで「おやつ作り講座」を行っている。調理実習後の試食時には、栄養講話も行っている。三世代同居率が高い地域であることから、単に子どものおやつをつくる実習ではなく、子どももお年寄りも楽しめるおやつと季節の行事食や郷土料理を、子育て世代と祖父母世代が一緒になって調理し、交流できる場としている。さらに、今年度は、定期的な活動場所であった地域の公民館の建て直しにともない、おやつ作り以外の活動時にも法人の施設を定期利用している。

また、地域のコミュニティセンターや老人クラブ等から依頼を受け、介護保険の説明を行うほか、健康体操、健康講話を継続的に行っている。

いずれの教室においても、当法人の職員である管理栄養士や作業療法士をはじめ各専門職を派遣し、減塩対策やサ

ルコペニア予防対策、認知症高齢者への対応など、専門性の高い内容であっても、参加された方にわかりやすく伝えるように心がけている。

また、高齢者や障害者世帯を対象に健康管理や安否確認を目的とした、「弁当配達サービス」を自主事業として行っている。

活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

地域に出向き活動を重ねていくと、気軽に声をかけることができる身近な専門家として、近隣地区から同様の依頼が増えてきている。また、地域で課題となっている高齢者や障害者世帯の食事についても支援を始めることができ、地域との結びつきがさらに強化されてきていることを実感している。

また、今年度はさらに「子育てサロン」に法人の施設を開放したことで、施設に入所している利用者や通所利用者が子どもの元気な声に誘われ、声をかけたり交流したりする場面がみられている。子どもが元気に遊ぶ姿や声、笑顔や笑い声は、利用者を笑顔にし生きる気力を提供しているように思う。

そして、職員が講話や講座の講師を務めることは、職員の地域貢献に対する意識を高めることはもちろんだが、担当した職員の専門知識を深め、資質の向上にもつながっていると感じている。

今後の展開

地域に出向き活動することで、依頼があった内容だけでなく、他にも課題があることが見えてきている。始めた

ばかりの配食サービスでは、利用前に利用者のお宅を訪問し、食べ物の好みや食事療法が必要かどうか、家庭での食事の状況などを本人や家族から伺っているが、食事に関すること以外に、「認知症」の支援や周りの理解が必要と思われるケースがあり、認知症高齢者を支える地域づくりとして、「認知症サポーター養成講座」を開催することにして、また、食事面では、単に弁当を配達するだけではなく栄養支援が必要ではないかと感じることもあったり、嚥下障害があり普通の食事形態では食事が難しい場合の弁当や昼食だけではなく夕食の弁当を希望されることもあり、今後の課題としている。

地域に出れば出るほどニーズは見えてくる。地域住民に施設と施設職員は地域の社会資源であると認識していただき、ともに地域福祉を考えていきたいと思っている。

主な経費や財源及び人員など

※年間あたり

主な経費(支出)	経費概算額	主な財源(収入)	財源概算額
消耗品支出	30,000円	弁当利用料収入	560,000円
雑支出(弁当食材費等)	728,000円	法人負担	198,000円
	円		円
	円		円
	円		円
合計	758,000円	合計	758,000円

- 取り組みに係わった職員数 5名
 (職種等：施設長、管理栄養士、作業療法士、ヘルパー、事務員、など)

※法人全体の事業規模
 (平成25年度決算の事業活動収入) 1,001,573,000円



健康体操の様子



高齢者調理教室の様子



子育てサロンでの「おやつ作り講座」



幅広い世代が交流する「おやつ作り講座」